

学校名	熊本県立南稜高等学校
-----	------------

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

「地域を担う生命総合産業（Total Life Industry）クリエイターの育成」

2. 研究の目的

地域の基幹産業である「農業」を食料生産の分野だけに留めず、教育・福祉・生活等あらゆる分野と融合した新総合産業分野を創造し、地域の創生へ寄与できる豊かな創造力と技術を持った人材を輩出する。また、都市部や諸外国の都市と農業文化交流を図ることでグローバルな視点を養うとともに、地域の風土・文化的資源や人的資源を活用しながら、日本文化遺産に認定された「球磨人吉地域」の伝統文化及び先人の技術や知恵の結晶を次世代に継承し、豊かな心の拠り所として地域を活性化できる実践力あるクリエイターを育成する。

※ 生命総合産業

地域及び社会のニーズを取り入れ、基幹産業である農業を軸とした新たな産業分野を「生命総合産業」と表し、そのクリエイターを本校SPH事業で育成する。このクリエイターたちが将来的な地域の活性化人材となって、地域及び産業の維持と発展、活性化に寄与する。

3. 実施期間

契約日から平成31年3月15日まで

4. 当該年度における実施計画

【具体的な人材育成目標】

各研究項目で、以下の人材を育成することにより、地域内の各産業分野で即戦力として活躍し、地域産業の活性化に貢献する。また、他分野と融合した新総合産業分野を創出し、経済的効果・就業環境の整備、発展的な産業活動の推進を果たす。地域から必要とされ、地域に根付く産業人が増えることを目標とする。具体的な数値目標としては、これまでの実績と研究対象生徒（現2年生）の進路希望状況から判断し、地域就業率35%（平成27年度実績32%、平成28年度実績28%（27人／94人）、平成29年度実績39%（25人／65人））を目指す。

平成28年度は、本校独自で行ってきた就農者育成プログラム「南稜就農塾」を一部改編し、地域産業のリーダー、もしくは、生命総合産業のクリエイターとなる人材を育成するモデルとして位置づけ、全学科から将来のリーダーと期待される生徒を募り、教育活動を行った。この活動や経験の中で人材育成の軸となる農業に関する見識を育んだ。また、各学科では、将来的に地域内の各産業分野で活躍する人材として必要な資質と基礎的な能力の育成を行った。

平成29年度は、「南稜就農塾」において育成した各科リーダーとなる生徒が各科の研究の軸としてリードし、リーダー及びクリエイターとしての資質・能力の向上を図った。また、各科の生徒は、2年次の研究の中で各産業分野において必要とされる産業人としての資質・能力の向上を図った。

最終年度となる平成30年度は、各科の取組みを充実・達成させて、その成果となる人材を地域内へ輩出する。また、進学者については、本校卒業・進学前に将来の目標と展望を明確化し、進学先の卒業後に地域内の各産業分野で活躍する人材となる自覚を持たせる。高校卒業後の就業者と進学者が地域内の各産業分野で連携・協働、創造的活動を行うことで、農を軸とした新総合産業分野を構築し、地域を活性化できる実践力のあるクリエイター集団が地域内に生まれ、地域の産業維持・経済復興・雇用創出・安定した豊かな生活の確保・豊かな心を持つ次世代の姿を創出する。

(1) 具体的な実践内容と計画（平成30年度1年生）

ア 南稜就農塾

(ア) 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成

学校設定科目「球磨農林学」と結び付けながら、地域の基幹産業である農業の歴史や先人の創意工夫を知り、地域の基幹作物とその由来について理解を深める。また、生徒の意識アンケート結果をもとに、地域先進農家にて生産現場の視点から地域農業の課題や自己の目標を具体化する。さらに、大豆100粒運動に取組み、地域農業の課題を見つめ、その改善に向けたプロジェクト活動を推進し、2年目の活動へつなげる。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

(イ) 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出

自己のキャリアモデルを養う職業人育成プログラムの作成に着手し、モデルプランを作り上げる。上級学校進学希望者には、情報収集や基礎学力向上等、進路決定のための支援を実施する。県内4H（青年農業者）クラブとの意見交換会や講演等の連携事業を強化し、身近な存在から将来の就農者像としてのモデリングを行い、自己のキャリアプラン作成に活用する。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

イ 各学科での取組

(ア) 総合農業科

平成29年度県立学校再編により、新校設置となった。そのため、既存の生産科学科・園芸科学科・環境工学科を統合・再編した総合農業科を新設した。そこで、これまでの研究項目のうち、3学科に分けて1年次に研究活動を行ってきた内容については、最終到達目標を変えることなく統合することで対応できるように改訂する。具体的には、「地域の特色と資源を活かしたモノづくり」の研究に、「6次産業化人材の育成とモデルケースの構築」の内容を含めた研究項目とする。また、「地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践」の研究に、「生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得」の内容を含めた研究項目とする。

a 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～<動物コース>

農業は食料生産及び多面的機能を持ち、地域を支える重要な構成要素であることを生

徒に理解させる。そのうえで、衣食住を支える素材の生産分野についての学習へ移行し、畜産経営に必要な知識・技術教育を特化していく。

[実施教科「科目」：農業「小動物」・「球磨農林学」]

b 地域の特徴と資源を活かしたモノづくり<植物コース>

※ 研究内容の改訂

様々な作目を栽培する中で、それぞれの栽培適正や利用特性等を理解し、加工用原材料としての可能性を検証する。知的財産教育を含めた6次産業化やブランド化に関する基礎的な知識を習得する。また、農作物栽培に関する生産環境を確認し、安全で安心な食料生産の栽培方法と高付加価値を持つ食材の生産につなげる。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・「総合実習」・「球磨農林学」]

c 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践<植物コース>

※ 研究内容の改訂

農業全般の基礎的・基本的な知識と栽培技術について、農業実習を通して体験的に習得する。また、GAP（生産工程管理）認証の基準に則り、試験施設及び圃場の整備と設備を導入し、共同研究の諸条件設定を行う。更に、地域農家及び農業法人等への継続性のある共同研究の企画と募集、依頼を行う。また、農業実習をとおして、農具の使用方法や管理を学び、規範意識の高揚を図る。また、危険を事前に予測し、安全な実習を心がけるため、効率的な作業手順を理解する。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・「球磨農林学」]

d 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成<環境コース>

林業関係の仕事内容を理解し、興味関心を持つ。人吉・球磨地域での林業従事者として、伐採・搬出・製材・加工などの仕事内容に対応し、即戦力としての育成を目指した知識と技術を学ぶ。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・「球磨農林学」]

e 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成<環境コース>

建設・土木業の仕事内容を理解し、興味関心を持つ。農業全般の基礎的・基本的な知識と専門技術について、農業実習及び実験を通して体験的に習得する。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・「球磨農林学」]

(イ) 食品科学科

a 食の6次産業化を担う人材の育成～地域の食品開発センターとしての確立～

※ 研究内容の改訂

6次産業化の基礎知識を学習する。農畜産物の加工・貯蔵・品質管理・食品衛生・分析などに関する基礎的・基本的な知識と技術を実験・実習をとおして体験的に習得する。また、県内・地域の食品製造関連企業や球磨焼酎蔵元の視察研修を実施し、食品製造関連産業について学習する。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・「総合実習」・「食品製造」・「食品化学」
・「球磨農林学」]

(ウ) 生活経営科

a 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成

農業や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を、農業や家庭科の専門

科目をとおして修得する。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」、家庭「家庭総合」・「ファッション造形基礎」]

b 農村・地域社会及び文化の伝承と継承ができる人材育成

地域農村生活の歴史・現状について、文献や写真をもとに知識面の理解を進めるとともに、農業実習・販売実習・地域の農産品販売会への参加をとおして体験的に習得させる。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・「球磨農林学」、家庭「家庭総合」]

(エ) 普通科

a 農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーターの育成<体育コース>

自然体験活動及び生涯スポーツの方法と知識を習得する。自然体験活動では、地域に潜在的にある様々な資源（自然資源・歴史資源・人的資源など）を発掘・理解する。また、高齢化の進行している地域の実情を理解し、高齢者スポーツや障がい者スポーツについても理解を深める。地域のグリーンツーリズム研究会や関連企業等と連携し、活動体験から、グリーンツーリズムの理論と有用性を理解し、実践方法を学ぶ。

[実施教科「科目」：体育「スポーツⅤ」、総合「球磨地域学」]

b 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及<福祉コース>

作物の栽培実習の中で、農作物の基礎的な栽培方法と知識を習得する。また、農作物や花・果樹・土・水・虫に触れて学ぶ体験をもとに、園芸福祉の観点から農業の役割と効果を理解する。

[実施教科「科目」：福祉「生活支援技術」・「社会福祉基礎」、総合「球磨地域学」]

(2) 具体的な実践内容と計画（平成30年度2年生）

ア 南稜就農塾

(ア) 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成

地域農家での研修や事業者研修において地域課題を明確化し、その改善に向けたアプローチを考え、計画→実行→評価→改善（PDCA）活動を回すことで3年次に学習を深める素地を形成する。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

(イ) 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出

外部有識者を加えた委員会を開催し、その中で生徒一人一人のプログラムを見直し、改善を図る。また、3年目に実施する繁殖講習会に向け、夏期休業中に実地研修を行い、知識や技術を深めさせ、資格取得に向けた意識の高揚を図る。

進学希望者については、大学のオープンキャンパスをはじめ、上級学校訪問を活発に行っていく。県内4Hクラブとの意見交換会や講演等の連携事業を強化し、身近な存在から将来の就農者像としてのモデリングを行い、自己のキャリアプラン作成に活用する。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

イ 各学科での取組

(ア) 総合農業科

a 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱と

した教育実践～＜動物コース＞

グローバル化が進む農業において、農業分野の知的財産に関する動向をつかむとともに、全国の実践事例から畜産経営の成功事例を収集し、それらを教材として問題解決能力を養う。また、講師を招いての講演会や視察研修を授業へ取り込み、畜産経営感覚の醸成を図る。ケースメソッドを導入し、討論型授業を組み入れ、ケースをもとにした分析や意志決定訓練を繰り返し行い、実践能力を養う。インターンシップにて希望者は実際の畜産経営に触れ、高度な飼育技術の習得を目指す。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・「畜産」・「総合実習」]

b 地域の特徴と資源を活かしたモノづくり＜植物コース＞

農産物販売におけるマーケティングやデザインの必要性を学び、農産物の物語性を取り入れたパッケージデザインや販売方法を考え、ブランド化を目指す姿勢を身に付けると共に、農畜産物の商品化やブランド化に関わる知的財産戦略を検討し、地域農業に寄与できる力を身に付ける。

[実施教科「科目」：農業「作物」・「総合実習」]

c 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得＜植物コース＞

地域農業に関する視察及び体験、研修等を実施し、地域内の農業の現状と特性、課題を理解する。GAP認証後の更新に向けた農場の維持と同時に、環境整備を行い、生徒や職員などの安全面にも重点を置き、より安全・安心な生産物を提供するため、高い生産管理体制を確立するPDCAサイクルを実践する。

[実施教科「科目」：農業「野菜」・「総合実習」]

d 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築＜植物コース＞

「南稜産特性100%野菜ジュース」の試作を行う。食品製造及び加工の基礎・基本的な知識と技術を習得する。食品科学科と連携し、栄養価を考慮した原材料の加工と調合、レシピ作成を行う。校内での試飲と評価を行う。

[実施教科「科目」：農業「野菜」・「果樹」・「総合実習」]

e 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践＜植物コース＞

地域農家の課題を明確にし、共同研究者が研究及び試験設定を行い、実践的共同研究を行う。また、共同研究者と学校の役割及び実施内容を明確にし、栽培管理・調査・検証の研究内容及び研究に必要な資材等の検討・準備を行い、実施する。共同研究者の指導と技術支援のもと、栽培技術の習得と実践を行う。

[実施教科「科目」：農業「草花」・「果樹」・「農業情報処理」]

f 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成＜環境コース＞

林業関係の仕事を体験する。林業ガイダンスの視察や体験、最先端測量技術講習（ドローン）、インターンシップなどを実施し、地域内の林業関係の職業理解と現状や課題について学習していく。

[実施教科「科目」：農業「森林科学」・「測量」・「総合実習」]

g 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成＜環境コース＞

建設・土木業の仕事を体験する。建設産業ガイダンスの視察や体験、最先端測量技術講習（ドローン）、インターンシップなどを実施し、地域内の建設産業の現状と特性を知り、課題を理解する。また、日頃の専門教科の学習活動を積み重ね、プロジェクト活

動に生かしていく。

[実施教科「科目」：農業「農業土木設計」・「測量」・「総合実習」]

(イ) 食品科学科

a 食の6次産業化を担う人材の育成～地域の食品開発センターとしての確立～

※ 研究内容の改訂

地域や「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+事業)と連携し、視察・研修を通して地域の農畜産物に高付加価値を付けた特産品開発を検討する。また、地域の食品製造関連企業でのインターンシップ及び球磨焼酎蔵元での醸造実習を実施し、地域内の加工品開発の現状、特性、課題を理解する。さらに、将来の職業選択を考慮した地域課題の解決に向けた産学官連携による共同研究を企画する。

[実施教科「科目」：農業「球磨農林学」・「課題研究」・「総合実習」・「食品製造」
・「食品化学」・「農業情報処理」・「微生物利用」]

(ウ) 生活経営科

a 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成

健康と食生活の関わりについて理解させ、豊かな食事を構成する要素として、栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどの関する知識と技術を習得させ、学習を生かして家庭や地域において、食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。また、インターンシップや職場見学に行き、地域資源と産業の関わりについて体験的に理解を進める。

[実施教科「科目」：農業「小動物」、家庭「子どもの発達と保育」・「ファッション造形」・「フードデザイン」]

b 農村・地域社会及び文化の伝承と継承ができる人材育成

人吉・球磨地域の伝統行事(しゅんなめじょ、三十三観音巡り等)の調査・研究活動や、科目「小動物」などの交流学习をとおして、伝統食や生活習慣、伝統文化の必要性を理解し、生活技術・コミュニケーション能力の向上を図る。

[実施教科「科目」：農業「小動物」、家庭「子どもの発達と保育」・「ファッション造形」・「フードデザイン」]

(エ) 普通科

a 農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーターの育成<体育コース>

1年次より展開・発展した自然体験活動及び生涯スポーツ・障がい者スポーツの方法と知識を習得する。自然体験活動では、地域に潜在的に潜んでいる様々な資源(自然資源・歴史資源・人的資源など)を発掘・理解するとともに、フットパス・野外キャンプなどの実習を行う。また、高齢化の進行している地域の実情を理解し、高齢者スポーツや障がい者スポーツについても理解を深める。特にビーチバレーボールなどの人吉球磨地域で盛んに行われているスポーツの実践を行い、指導ができることを目指す。地域のグリーンツーリズム研究会や関連企業等と連携し、活動体験から、グリーンツーリズムの理論と有用性を理解し、実践方法を学ぶとともに、職業としてのあり方等について考察を深める。

[実施教科「科目」：体育「スポーツV」、総合「球磨地域学」]

b 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及く福祉コース>

介護職員初任者研修修了の資格取得に取り組み、介護職員として地域を支える人材となる基礎的な能力を身につける。

[実施教科「科目」：福祉「介護福祉基礎」・「生活支援技術」・「こころとからだの理解」]

(3) 具体的な実践内容と計画（平成30年度3年生）

ア 南稜就農塾

(ア) 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成

農村文化の維持継承、そして地域価値の再認識を図るうえで外部機関との連携は不可欠である。そのために、農業×歴史・文化×観光との融合が実現できる事業者とのタイアップし、世界や日本国内へ発信できる人材の育成を目指す。また、これまで育まれてきた農業技術やノウハウのデジタル化により、その継承の一助とすることで、失われつつある地域文化や技術を持続できる学習体制を構築する。そのために「アグリ・インフォサイエンス」を導入し、農業学習の可視化を図る。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

(イ) 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出

これまで作成した個々のキャリアモデルプランや研修を含めた経験を振り返り、再度、キャリアモデルプランの構築を図る。進学希望者に対しては、上級学校訪問を行うとともに、志望書の作成や面接練習など受験の準備に取り組む。畜産コースの生徒に関しては、超音波画像診断装置を用いた妊娠鑑定の実践を行い、植物コースでは、生産工程におけるリスクマネジメントができる演習を行うなど、これまで以上に実践的な取り組みを行う。南稜就農塾生最上級生として、農家宿泊研修や4Hクラブとの意見交換会をはじめ、地域農家との関わりの中で育んだ意識や知識を後輩に伝えることで指導性を養うとともに、確かな知識や技術の習得に励む。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

イ 各学科での取組

(ア) 生産科学科

a 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～〈畜産コース〉

畜産が地域産業を支える重要な構成要素であることを生徒に理解させ、経営に必要な知識・技術教育を特化していく。そのための方策として、プロジェクト活動の推進や乳牛共進会への取り組み、また、講演会や視察研修を授業内に組み込み、畜産経営感覚の醸成を図り、高度な飼育技術の習得を目指す。また、畜産分野の知的財産に関する動向をつかむとともに、それらを教材として地域とのつながりを持ち地域産業を担う人材を育成する。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・「畜産」・「総合実習」・「課題研究」]

b 地域の特徴と資源を活かしたモノづくり

地域の文化や資源の特徴を理解し、知的財産権の視点を取り入れ、6次産業化やブランド化に挑戦する姿勢を身に付ける。学校農産物の強みを理解し、付加価値を高める為の販売方法やマーケティングを通して、経営感覚を身に付ける。また、SNSやIT機器を利用した情報収集や情報発信に積極的に取り組み、情報活用力やコミュニケーション

ン力を養う。

[実施教科「科目」：農業「作物」・「総合実習」・「課題研究」]

(イ) 園芸科学科

a 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得

GAPに関する基礎知識と実践力の向上を図り、地域及び他校に向けた情報発信と普及に向けた活動を行う。本校内の県版GAP認証農場の拡大に向け、トマト以外の他作物での認証に向けた検証と諸条件設定を行う。そして、将来的に、県版GAP制度を取り入れた持続可能な農業の必要性を普及できる人材（実践者・理解者・推進者）を育成する。また、地域農業の課題解決や改善に向けた主体性を持った人材を育成する。

[実施教科「科目」：農業「野菜」・「農業機械」・「課題研究」]

b 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築

飲みやすさと安全性、経済性、加工効率等を考慮した「南稜産特性100%野菜ジュース」を完成させ、6次産業化のモデルケースとして地域へ提案する。産学連携を行い、外部評価による改良と改善を加えて商品化が可能な製品企画を行う。また、本校生産物を活用した新たな6次産業化製品の検討と企画も行う。将来的に、地域内の特産物や食材を活用した新たな加工食品を企画・製造・商品化・販売し、地域産業の活性化に寄与する人材を育成する。

[実施教科「科目」：農業「野菜」・「総合実習」・「課題研究」]

c 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践

共同研究者と継続研究を行い、2ヶ年の成果情報をまとめて地域へ公表する。また、希望者への技術普及及び導入に向けた講習会を行う。共同研究者と継続的な連携を行い、本校を活用して新たな研究に着手し、地域農業の振興と活性化に繋がる継続的な新規栽培品目と技術の導入・普及に努める。

[実施教科「科目」：農業「草花」・「総合実習」・「農業経営」・「課題研究」]

(ウ) 食品科学科

a 地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～

地域特産物を活用した商品開発等により、地域の食品開発センターの役割を理解し、地域産業の活性化に努める。あさぎり町の地域活性化事業の1つである「駅カフェ（高校生カフェ）」の運営ができるように、現在までに学習した食品科学分野の基礎知識・技術を基にして、専門知識・技術の深化を図る。

[実施教科「科目」：農業「課題研究」・「農業情報処理」・「醸造」・「食品化学」
・「食品流通」]

b 食の6次産業化を担う人材の育成

地域の農業や解決すべき課題について調査研究を行い、地域産業の活性化に努める。また、農産物の栽培から収穫、収穫物の加工を通して付加価値をつけた新たな商品の開発・生産を行い、あさぎり町の地域活性化事業の1つである「駅カフェ（高校生カフェ）」での販売を目指すことで、食の6次産業化の実現と、これまでに習得した専門科目の知識・技術の応用・深化を図る。

[実施教科「科目」：「課題研究」・「農業情報処理」・「醸造」・「食品化学」
・「食品流通」]

(エ) 環境工学科

a 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成

林業経営感覚、木材取引に必要な感覚について学び、将来の地域林業の在り方を考える。林業ガイダンスの視察や体験、最先端測量技術（ドローン）の習得などを実施し、将来的な地域産業のリーダーとして活躍できる幅広い知識と技術を習得し、コミュニケーション能力の育成を図る。

[実施教科「科目」：農業「森林科学」・「総合実習」]

b 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成

建設・農業土木業に必要な経営感覚について考える。地域と共同研究を行うことにより、農村環境の保全と開発の実践者・理解者・推進者となり、地域内の指導者として普及に努める。また、最先端測量技術（ドローン）の習得による実践力の育成を図る。

[実施教科「科目」：農業「農業土木設計」・「総合実習」]

(オ) 生活経営科

a 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成

生活資源の循環や産業との関わり、新しい環境技術の農村生活への反映方法、保育、住居、衣服、看護などを学び、健康で豊かな生活の実践に取り組む人材を育成する。人吉・球磨の伝統的な住居を訪問し、食文化や生活について学ぶ。

[実施教科「科目」：農業「生物活用」・「課題研究」、家庭「ファッション造形」・「郷土料理」・「生活と福祉」・「消費生活」・「生活教養」]

b 農村・地域社会及び文化の伝承と継承ができる人材育成

地域文化が気候風土などの自然環境や宗教、風俗・習慣などに関わって成り立ち、伝承・発展してきたことを理解させ、日本や世界の文化に関心を持ち、伝承、創造することができる能力と実践的態度を育てる。特に、染色技術を学び、和綿の魅力について、交流会を通して発信する。

[実施教科「科目」：農業「生物活用」・「課題研究」、家庭「ファッション造形」・「郷土料理」・「生活と福祉」・「消費生活」・「生活教養」]

(4) 南稜版学習到達度評価方法『LAEM for Nanryou ※』

※ LEARNING ACHIEVEMENT EVALUATION METHOD FOR NANRYOU HIGH SCHOOL の略

ア 定性評価

(ア) 内部評価

a 実践者としての意欲・意識・理解・態度の変容を捉える調査

将来的な達成目標を考慮し、1年次～3年次まで共通した内容で到達度や達成状況を測る調査を実施する。平成30年度1年生は4段階の総合評価で評価平均2.5以上、2年生は評価平均2.5以上、3年生は評価平均3.0以上を目標とする。

b 研究及び研修内容に関する調査

研究や研修の実践前後で変容や学習成果の習熟度を捉えるアンケート調査を実施する。4段階の総合評価で評価平均2.5以上を目標とする。

(イ) 外部評価

研究の推進及び運営指導に携わる各分野の有識者、本校SPH活動の理解者等によるアンケート調査を実施する。4段階の総合評価で評価平均3.0以上を目標とする。

(ウ) 研究の成果として生徒の変容が捉えられる実技評価

生徒の知識、技能、意欲等の伸長や変容を映像として記録し、生徒の力量の把握と、SPHの取組の効果を視覚的に測定する。

年次毎の目標達成に関する課題を設定し、実技を評価・記録する。4段階の総合評価で評価平均3.0以上を目標とする。

(エ) ポートフォリオ評価

研究及び関連学習の成果（自己評価等）や記録をまとめ、振り返りと再学習へ活用する。

各自が作成したポートフォリオを自己及び相互分析し、評価する。4段階の総合評価で評価平均3.0以上を目標とする。

(オ) 進路希望

年次進路希望調査で、地域内就業希望者35%以上を目標とする。

【平成30年度1年生】

※平成29年度より、総合農業科と普通科（体育・福祉コース）を新設した。

研究対象	研究内容	定性目標	効果測定
南稜就農塾	1 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・農業専門分野の理解及び興味・関心向上 ・地域内農業関係進路意欲の向上、その変容 ・農家宿泊研修及びプロジェクト型学習の理解度 	内部及び外部評価 テキストマイニング ポートフォリオ
	2 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアモデルプランに沿った将来設計書作成 ・農業関連の進学意欲向上 ・高度な資格取得への意欲向上 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
総合農業科	3 「持続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～（動物コース）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の理解向上 ・アイデアの具体化と表現力の向上 ・知的財産の理解 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	4 地域の特色と資源を活かしたモノづくり（植物コース）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業及び農産物の理解向上 ・原材料（農作物）の理解 ・6次産業化の理解 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	7 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践（植物コース）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の理解向上 ・農業生産技術及び栽培管理の理解 ・既存の栽培体系の理解と技術の向上 ・GAP 認証基準の理解 	内部及び外部評価 実技評価 ポートフォリオ
	⑧ 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成（環境コース）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農林業の理解向上 ・環境保全意識の向上 ・地域環境及び資源の理解向上 	内部及び外部評価 実技評価 ポートフォリオ
	⑨ 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成（環境コース）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境の理解向上 ・環境保全意識の向上 	内部及び外部評価 実技評価 ポートフォリオ

食品科学科	⑩ 食の6次産業化を担う人材の育成 ～地域の食品開発センターとしての 確立～	・職場見学及び研修実施 ・地域特産物及び特産品の理解 ・地域農業の理解向上 ・6次産業化の理解	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
生活経営科	12 地域の生活環境と農村生活・健康 を支える人材の育成	・農業や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	13 農村・地域社会と文化の伝承と継承 ができる人材育成	・地域農村社会の歴史・文化・生活についての理解向上	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
普通科	14 農業の多面的機能を活かした自然 体験活動及び生涯スポーツのコーディネーター育成(体育コース)	・地域の自然体験活動の理解向上 ・地域環境及び資源の理解向上 ・高齢者スポーツ、障がい者スポーツの理解	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	15 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と 地域内への導入と普及(福祉コース)	・園芸福祉及び園芸療法の理解 ・地域の福祉施設の理解	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ

【平成30年度2年生】

研究対象	研究内容	定性目標	効果測定
南稜就農塾	1 地域農業の課題探究型学習による 知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	・地域外での学習による地域理解到達度 ・地域農業への課題意識と解決力の向上 ・PDCA サイクルによる学習到達度	内部及び外部評価 テキストマイニング レポート
	2 高度な資格取得及び上級学校への 進学者輩出	・キャリアモデルプランに沿った将来設計書作成 ・農業関連の進学意欲向上 ・高度な資格取得への意欲向上	内部及び外部評価 活動評価 キャリアプラン
総合農業科	3 「永続性」を持った農業教育実践と 人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を 柱とした教育実践～(動物コース)	・知的財産学習の深化と意欲向上 ・農業経営への意識と経営感覚の醸成 ・地域農業の課題解決意識の向上	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	4 地域の特色と資源を活かしたモノづくり (植物コース)	・ブランド化意欲の向上 ・マーケティングの理解向上 ・地域農業及び資源の理解向上	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	5 生産環境の維持・管理のために必要な 知識と実践的技術の習得(植物コース)	・GAP基準に則った生産の必要性を理解 ・GAP認証基準の理解と実践力向上 ・既存の栽培体系の理解と改善意欲の向上	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	6 6次産業化人材の育成とモデル ケースの構築(植物コース)	・食品製造・加工における技術及び知識の習得 ・原材料(農作物)の品質向上 ・6次産業化の理解と実践意欲の向上	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ

	7 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践(植物コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の理解と貢献意欲の向上 ・農業生産技術及び栽培管理の理解 ・共同研究の理解と実践力向上 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	⑧ 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成(環境コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ及び体験活動での職業理解 ・地域林業への理解と改善意欲の向上 ・地域環境及び資源の理解向上 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	⑨ 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成(環境コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ及び体験活動での職業理解 ・地域環境の理解と改善意欲の向上 ・環境保全意識の向上 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
食品科学科	⑩ 食の6次産業化を担う人材の育成～地域の食品開発センターとしての確立～	<ul style="list-style-type: none"> ・食品開発センターとしての理解と意欲向上 ・インターンシップ及び醸造実習での職業理解 ・地域特産物の理解と商品開発・企画力向上 ・6次産業化の実践意欲向上 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
生活経営科	12 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・食育への意識及び推進意欲の向上 ・インターンシップ・職場見学成果 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	13 農村・地域社会と文化の伝承と継承ができる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化への理解向上 ・コミュニケーション能力の向上 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
普通科	14 農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーター育成(体育コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然体験活動の理解 ・地域環境及び資源の理解向上 ・高齢者スポーツ、障がい者スポーツの理解 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	15 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及(福祉コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員初任者研修修了 ・インターンシップ、介護施設実習 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ

【平成30年度3年生】

研究対象	研究内容	定性目標	効果測定
南稜就農塾	1 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携による学習到達度 ・地域に残る技術・ノウハウの習熟度 ・2年次までに得た知識・技術の活用力 	内部及び外部評価 レポート及び活動評価 ポートフォリオ
	2 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアモデルプランに沿った将来設計書作成 ・農業関連の進学意欲向上 ・高度な資格取得への意欲向上 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
生産科学	3 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産学習の深化と意欲向上 ・畜産経営への意識と経営感覚の醸成 ・地域農業との連携と飼育技術の向上 	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	4 地域の特徴と資源を活かしたモノづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング意欲及び実践力向上 	内部及び外部評価

科	くり	・ブランド化意識及び実戦力向上 ・地域農業の理解及び貢献意欲の向上	活動評価 ポートフォリオ
園芸科学科	5 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	・GAP規範意識の向上 ・GAP推進及び普及意欲の向上 ・進路先での活用方法の検討	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	6 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	・主体的な商品開発意識の定着 ・6次産業化推進及び普及意欲の向上 ・地域貢献意欲の向上 ・地域農特産物及び特産品の開発意欲	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	7 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	・研究及び実践意欲の向上 ・成果普及意欲の向上 ・地域貢献意欲の向上	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
食品科学科	8 地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	・分析に係る知識・意欲の向上 ・地域活性化への実践意欲の向上 ・地域特産品を活用した商品開発への意欲の向上	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	9 食の6次産業化を担う人材の育成	・マーケティングの理解と商品企画の提案力向上 ・6次産業化の実践意欲向上	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
環境工学科	10 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成	・学習及び技術意欲の向上 ・実践意欲の向上 ・地域貢献意欲の向上	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
	11 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成	・学習及び技術意欲の向上 ・実践意欲の向上 ・地域貢献意欲の向上	内部及び外部評価 活動評価 ポートフォリオ
生活経営科	12 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	・地域理解意欲の向上 ・生活改善意欲の向上 ・コミュニケーション能力の向上	内部評価 活動評価 ポートフォリオ
	13 農村・地域社会と文化の伝承と継承ができる人材育成	・地域理解意欲の向上 ・生活改善意欲の向上 ・コミュニケーション能力の向上	内部評価 活動評価 ポートフォリオ

イ 定量評価

(ア) 「南稜版SPH到達度テスト」問題開発

「南稜版SPH到達度テスト」問題を開発し、研究活動に関する理解度や学習の定着度、知識を測るペーパーテストを実施する。目標値は正答率60%以上とし、目標達成者数60%以上を目指す。

(イ) 研究内容に関する課題を提示し、技能を図る実技試験の実施

年次毎の目標達成に関する課題を設定し、実技試験で評価する。目標値は4段階評価で評価3以上とし、目標達成者数60%以上を目指す。

(ウ) 研究内容に関する資格取得の状況（チャレンジ数・合格数及び合格率）評価

関連資格及び検定の合格者数60%以上を目標とする。

(エ) 研究内容に関する課題レポートを実施

関連する課題レポートの提出率100%、4段階の総合評価で評価3以上を目指し、目標達成者60%以上を目標とする。

(オ) 研究関連科目のペーパーテスト

関連科目の評価平均で平成30年度1年生は50点以上、2・3年生は60点以上を目標とし、目標達成者数80%以上を目指す。なお、評価結果の度数分布により、ボリュームゾーンの推移、成績下位者及び上位者の推移、下位者の課題分析を行う。

(カ) 農業鑑定競技の到達度

2回の校内試験の最終成績で評価する。平成30年度1年生は正答率37%（15問正解）以上、2年生は正答率45%（18問正解）以上、3年生は正答率55%（22問正解）以上を目標とする。

(キ) 現場実習外部評価 ※ 2年生のみ

派遣先事業所等の外部評価を行い、目標は4段階の総合評価で評価2.5以上とする。

(ク) 進路実現度

進路目標100%達成を目標とする。また、就職希望者のうち、地域及び産業の担い手となる地域内就業者を35%以上輩出する。

S P H研究関連分野への就業及び進学割合、進路先決定にS P H研究がもたらした影響と効果等についても分析・検証を図る。

【平成30年度1年生】

研究対象	研究内容	定量目標	効果測定
南 稜 就 農 塾	1 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	・進路目標に合わせたキャリアプラン作成 ・農家研修及びプロジェクト学習成果報告 ・郷土史、農業に関する書籍5冊以上借入	キャリアプラン 課題レポート 貸出書籍数
	2 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	・進学模試で評価C評価以上 ・関連科目の評点平均60点以上、到達度80%以上)	模試判定 ペーパーテスト
総 合 農 業 科	3 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～（動物コース）	・年次実技テスト（評価平均3以上、到達者60%以上） ・農業技術検定3級校内模試平均40点以上 ・熊本県学校農業クラブ連盟主催競技会出場 ・関連科目の評点（平均50点以上、到達者80%以上） ・SPH課題テスト（平均50点以上、到達者60%以上） ・校内農業鑑定競技（正答率37%以上、到達者60%以上）	ペーパーテスト 実技テスト 競技会評価 農業鑑定評価
	4 地域の特色と資源を活かしたモノづくり（植物コース）	・年次実技テスト（評価平均3以上、到達者60%以上） ・関連科目の評点（平均50点以上、到達者80%以上） ・課題レポート（提出100%、評価平均3以上） ・SPH課題テスト（平均50点以上、到達者60%以上）	ペーパーテスト 実技テスト 競技会評価 農業鑑定評価

		・校内農業鑑定競技(正答率 37%以上、到達者 60%以上)	課題報告評価
	7 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践(植物コース)	・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 50 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 50 点以上、到達者 60%以上) ・課題レポート及び報告会評価(提出 100%、評価平均3以上、到達率 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 37%以上、到達者 60%以上)	ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定評価 課題報告評価
	⑧ 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成(環境コース)	・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・農業関連科目の評点(評価平均 50 点以上) ・課題レポート(評価平均 50 点以上) ・SPH課題テスト(平均 50 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 37%以上、到達者 60%以上)	ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定評価 課題報告評価
	⑨ 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成(環境コース)	・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・農業関連科目の評点(評価平均 50 点以上) ・課題レポート(評価平均 50 点以上) ・SPH課題テスト(平均 50 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 37%以上、到達者 60%以上)	ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定評価 課題報告評価
食品科学科	⑩ 食の6次産業化を担う人材の育成～地域の食品開発センターとしての確立～	・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・関連科目の評点(平均 50 点以上、到達者 80%以上) ・商品開発課題レポート(評価平均 50 点以上) ・SPH課題テスト(平均 50 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 37%以上、到達者 60%以上)	ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定評価 課題報告評価 資格・検定合格率
生活経営科	12 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	・地域理解と創造的活動実践(年1回以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 50 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 50 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 37%以上、到達者 60%以上)	資格・検定合格率 ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定評価 課題報告評価
	13 農村・地域社会と文化の伝承と継承ができる人材育成	・伝統・文化の理解と継承活動(年1回以上) ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・関連科目の評点(平均 50 点以上、到達者 80%以上)	資格・検定合格率 ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定評価

		<ul style="list-style-type: none"> ・SPH課題テスト(平均 50 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 37%以上、到達者 60%以上) 	課題報告評価
普通科	14 農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーター育成(体育コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動及び生涯スポーツの理解と実践(年1回以上) ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・実践課題レポート(評価平均 50 点以上) ・関連科目の評点(平均 50 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 50 点以上、到達者 60%以上) 	ペーパーテスト 実技テスト 課題報告評価
	15 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及(福祉コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・課題レポート(評価平均 50 点以上) ・関連科目の評点(平均 50 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 50 点以上、到達者 60%以上) 	ペーパーテスト 実技テスト 課題報告評価

【平成30年度2年生】

研究対象	研究内容	定量目標	効果測定
南稜就農塾	1 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアプランの達成レベル(1～4段階) ・農家研修及びプロジェクト学習成果報告 ・農家・企業等体験研修(2件以上) 	課題レポート キャリアプランの達成段階評価 報告書評価
	2 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	<ul style="list-style-type: none"> ・関連資格受験、合格率 50%以上 ・進学模試で評価 C+評価以上 ・関連科目の知識向上(評価平均 65 点以上) 	資格受験数 資格取得率 模試判定 ペーパーテスト
総合農業科	3 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～(畜産コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 45%以上、到達者 60%以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) 	ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定評価 現場実習外部評価
	4 地域の特色と資源を活かしたモノづくり(植物コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・農業技術検定3級合格(平均 60 点以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 45%以上、到達者 60%以上) 	ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定評価 現場実習外部評価
	5 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) 	ペーパーテスト 実技テスト

習得(植物コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 45%以上、到達者 60%以上) ・関連資格・検定合格率(40%以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) 	<p>農業鑑定評価 現場実習外部評価 検定合格率</p>
6 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築(植物コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 45%以上、到達者 60%以上) ・関連資格・検定合格率(40%以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) 	<p>ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定評価 現場実習外部評価 検定合格率</p>
7 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践(植物コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 45%以上、到達者 60%以上) ・関連資格・検定合格率(40%以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) 	<p>実技テスト ペーパーテスト 農業鑑定競技 検定合格率 現場実習外部評価</p>
⑧ 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成(環境コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 45%以上、到達者 60%以上) 	<p>実技テスト ペーパーテスト 農業鑑定競技 検定合格率 現場実習外部評価</p>
⑨ 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成(環境コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(実践評価平均3以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 45%以上、到達者 60%以上) 	<p>実技テスト ペーパーテスト 農業鑑定競技 検定合格率 現場実習外部評価</p>
食品科学科 ⑩ 食の6次産業化を担う人材の育成～地域の食品開発センターとしての確立～	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・商品開発課題レポート(評価平均 50 点以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 45%以上、到達者 60%以上) 	<p>実技テスト ペーパーテスト 農業鑑定競技 検定合格率 課題レポート 現場実習外部評価</p>

		上)	
生活経営科	12 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域理解と創造的活動実践(年1回以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 45%以上、到達者 60%以上) 	実技テスト 資格・検定合格率 課題レポート ペーパーテスト 農業鑑定競技 現場実習外部評価
	13 農村・地域社会と文化の伝承と継承ができる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統・文化の理解と継承活動(年1回以上) ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 45%以上、到達者 60%以上) 	実技テスト 資格・検定合格率 課題レポート ペーパーテスト 農業鑑定競技 現場実習外部評価
普通科	14 農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーター育成(体育コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然体験活動の理解度 ・地域環境及び資源の理解度 ・高齢者スポーツ、障がい者スポーツの理解度 ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) 	実技テスト 課題レポート ペーパーテスト
	15 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及(福祉コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・課題レポート(評価平均 50 点以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・介護職員初任者研修全員合格 	実技テスト 課題レポート ペーパーテスト 修了評価テスト 資格合格率

【平成30年度3年生】

研究対象	研究内容	定量目標	効果測定
南稜就農塾	1 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自治体との連携達成度(80%以上) ・地域の問題と掲げた項目に対する改善に向けた提案数の比較 ・進路目標の達成度 ・プレゼンテーションの外部評価(4段階平均3以上) 	内部及び外部評価 問題解決実践とその活動実績 進路調査
	2 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定 ・進学模試で評価 C+評価以上 ・関連科目の知識向上(評価平均 65 点以上) 	進路決定率 農水模試結果 農家宿泊研修外部評価

生産科学科	3 「持続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上、到達者 60%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) 	実技テスト ペーパーテスト 農業鑑定競技
	4 地域の特色と資源を活かしたモノづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・農業関連科目の評点(平均 65 点以上) ・課題レポート(提出 100%、評価平均3以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上、到達者 60%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) 	実技テスト ペーパーテスト 課題報告評価 農業鑑定競技
園芸科学科	5 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上、到達者 60%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・課題研究成果報告レポート(提出率 100%、評価平均3以上) 	実技テスト ペーパーテスト 農業鑑定競技 課題研究報告
	6 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上、到達者 60%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・課題研究成果報告レポート(提出率 100%、評価平均3以上) 	実技テスト ペーパーテスト 農業鑑定競技 課題研究報告
	7 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上) ・課題研究成果報告レポート(提出率 100%、評価平均3以上) 	実技テスト ペーパーテスト 農業鑑定競技 課題研究報告
食品科学科	8 地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・課題研究成果報告(評価平均 60 点以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上、到達者 60%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) 	ペーパーテスト 実技テスト 課題研究報告 農業鑑定競技
	9 食の6次産業化を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) 	ペーパーテスト 実技テスト

		<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究成果報告(評価平均 60 点以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上、到達者 60%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) 	<p>課題研究報告 農業鑑定競技</p>
環境 工 学 科	10 地域林業の実践リーダー及び 経営管理能力者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均 3.5 以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・関連資格・検定合格率(60%以上) ・課題レポート(評価平均 70 点以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上、到達者 60%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) 	<p>実技テスト ペーパーテスト 課題レポート 資格検定合格率 農業鑑定競技</p>
	11 農村環境の保全と開発に従 事する技能者育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年次実技テスト(評価平均 3.5 以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・関連資格・検定合格率(60%以上) ・課題レポート(評価平均 70 点以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上、到達者 60%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) 	<p>実技テスト ペーパーテスト 課題レポート 資格検定合格率 農業鑑定競技</p>
生 活 経 営 科	12 地域の生活環境と農村生活・ 健康を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域理解と創造的活動実践(年 1 回) ・学習成果の習熟度(80%) ・関連資格取得・検定合格率(各 65%) ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上、到達者 60%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) 	<p>資格・検定合格率 アンケート調査 課題レポート ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定競技</p>
	13 農村・地域社会と文化の伝承 と継承ができる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統・文化の理解と継承活動(年2回) ・伝承及び継承に関連した就職者(2人) ・年次実技テスト(評価平均3以上、到達者 60%以上) ・関連科目の評点(平均 60 点以上、到達者 80%以上) ・校内農業鑑定競技(正答率 55%以上、到達者 60%以上) ・SPH課題テスト(平均 60 点以上、到達者 60%以上) 	<p>アンケート調査 課題レポート 関連就職者数 ペーパーテスト 実技テスト 農業鑑定競技</p>

5. 実施体制

氏名	職名	役割分担・担当教科
松村 研太郎	教諭	研究主任・総務企画・成果報告・生徒研究委員会・生産科学科主任・総合農業科主任・教科「農業」（畜産）
佐藤 浩臣	教諭	研究副主任・南稜就農塾・効果測定検証・総務部長・教科「農業」（園芸）
柿本 剛	教諭	研究副主任・会議運営・会計処理・園芸科学科主任・教科「農業」（園芸）
中村 弘美	教諭	研究副主任・成果報告・広報記録・食品科学科主任・教科「農業」（食品）
鶴本 信也	教諭	農場長・総務企画・教科「農業」（園芸）
守屋 徳隆	教諭	進路指導主事・総務企画・教科「理科」（理科）
白石 栄二	教諭	環境工学科主任・教科「農業」（農業土木）
西口 紀子	教諭	生活経営科主任・教科「家庭」（家庭）
出合 妙子	教諭	普通科主任・教科「地歴」（地理）
廣嶋 秀一	教諭	教務主任・総務企画・教科「地歴」（地歴）
井上 健太	教諭	効果測定・評価・教科「数学」（数学）
多田 太郎	教諭	評価・検証・記録・教科「農業」（農業）
栗原 健	教諭	評価・検証・記録・教科「農業」（園芸）
大島 由裕	教諭	評価・検証・記録・教科「農業」（林業）
城戸真由子	教諭	評価・検証・記録・教科「家庭」（家庭）
池田 秀作	教諭	N I C C・教科「外国語」（英語）
清永 彰	教諭	体育コース主任・評価・検証・記録・教科「保健体育」（保健体育）
鉄島 眞美	教諭	福祉コース主任・評価・検証・記録・教科「福祉・家庭」（福祉）
富永 奈子	教諭	会計処理・教科「農業」（園芸）
松本 紗依	教諭	会計処理・評価・検証・記録・教科「農業」（食品）
小馬田 裕	事務主査	事務・会計処理
荒毛 瑞穂	事務職員	事務・会計処理

（2）研究推進委員会

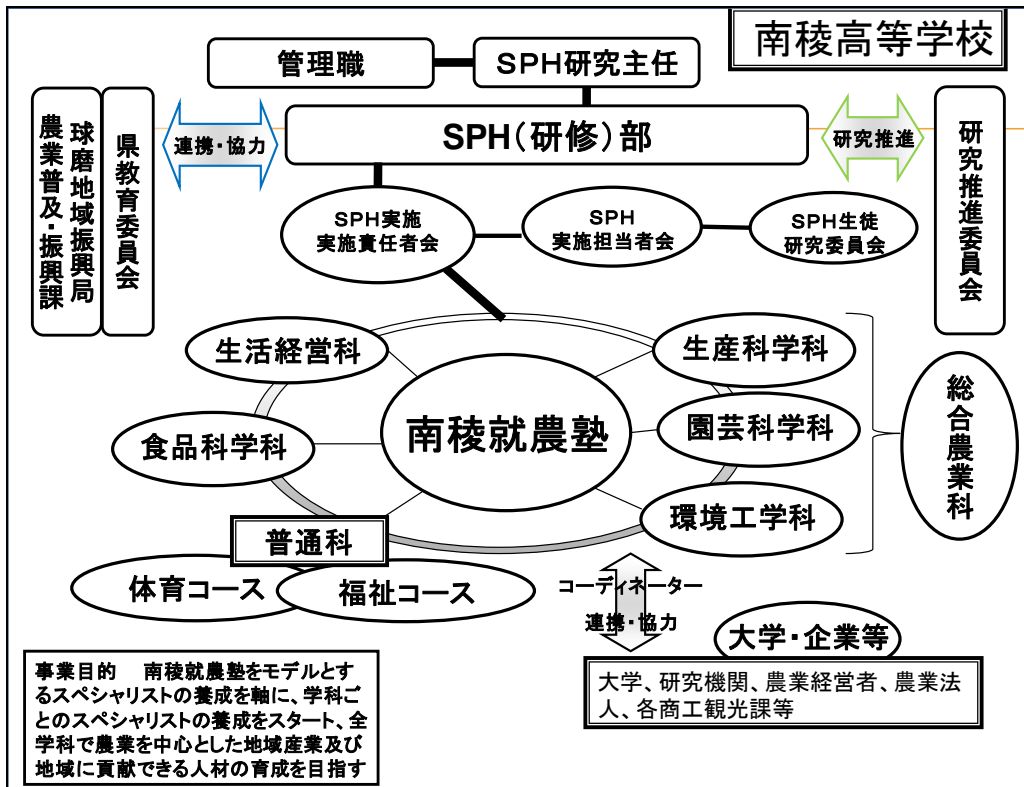
氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
横山 耕二	オフィスチェイカス代表 中小企業診断士・共育塾メンター	推進指導委員 統括
深水 吉人	熊本県指導農業士連絡協議会会長	推進指導委員
長田 伸一	球磨地域振興局農業普及・振興課長	推進指導委員
甲斐 真也	あさざり町役場 農業振興課長	推進指導委員
福田 勝徳	球磨地域農業協同組合長	推進指導委員
草野 貴光	熊本県教育庁教育指導局高校教育課主幹	推進指導委員
櫻井 祐二	熊本県立教育センター	推進指導委員

	情報教育研修室指導主事	効果測定・評価
紫藤 光一	熊本県立南稜高等学校 校長	推進委員
増村 健治	熊本県立南稜高等学校 教頭	推進委員
中村 真哉	熊本県立南稜高等学校 事務長	推進委員
松村 研太郎	熊本県立南稜高等学校 教諭（研究主任）	研究担当者
佐藤 浩臣	熊本県立南稜高等学校 教諭（研究副主任・南稜就農塾）	研究担当者
柿本 剛	熊本県立南稜高等学校 教諭（研究副主任）	研究担当者
中村 弘美	熊本県立南稜高等学校 教諭（研究副主任）	研究担当者
鶴本 信也	熊本県立南稜高等学校 教諭（農場長）	研究担当者

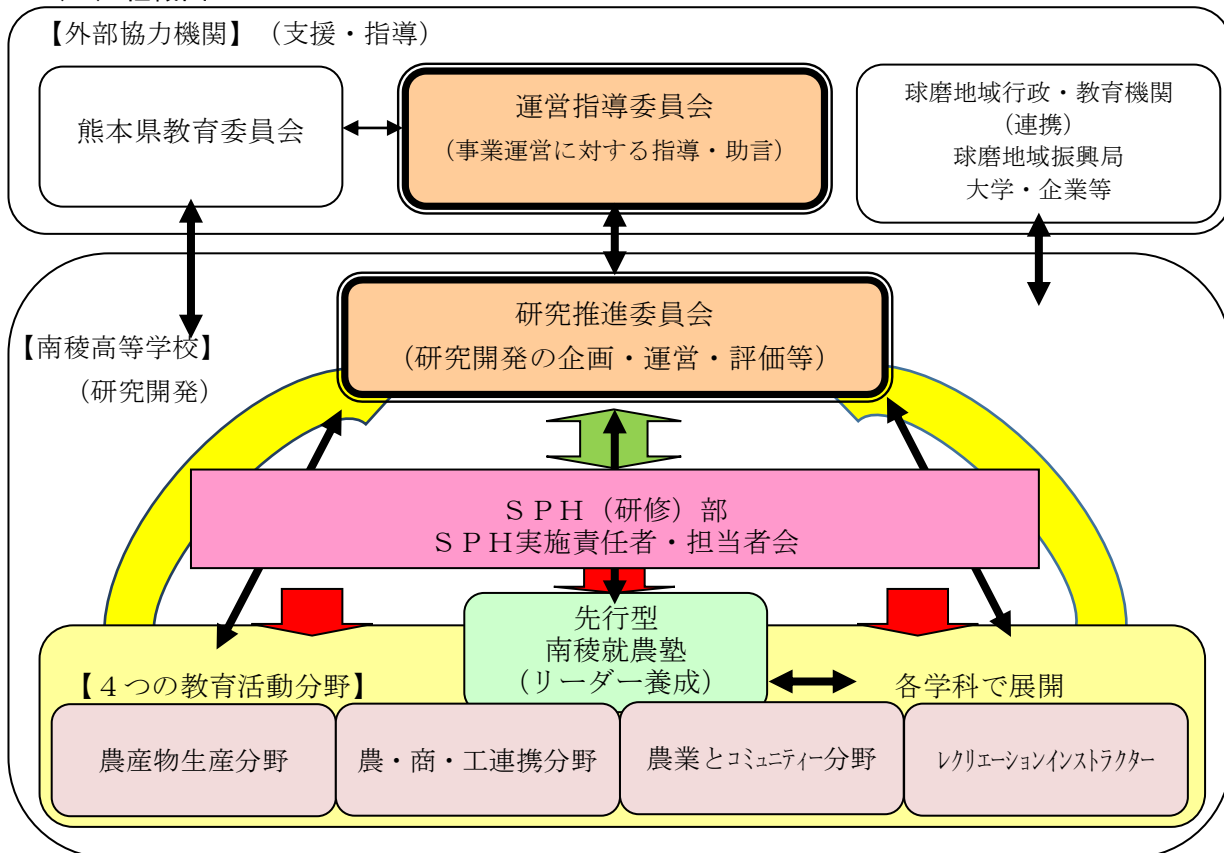
（３）運営指導委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
木之内 均	有限会社木之内農園 取締役会長	農業関係（委員長）
木下 統	国立大学法人宮崎大学農学部植物生産環境科学科 准教授	学識経験者（副委員長）
高崎 文子	国立大学法人熊本大学教育学部 准教授	学識経験者
西 和人	市房観光株式会社取締役	地域活用関係
大津 愛梨	NPO法人田舎のヒロインズ会長 (O2Farm)	再生可能エネルギー開発 ・農村文化の創出
長尾 成敏	有限会社長尾農産 代表取締役社長	農業関係
下田 安幸	農林水産部生産経営局 農地・担い手支援課長	農政関係
那須 高久	熊本県教育庁教育指導局 高校教育課長	学校教育

(4) 校内における体制図



(5) 組織図



6. 研究内容別実施時期

【3年次の活動計画】

実施時期	活動内容※1	研究内容 ※2
4月	GAP基準に則った見直しと検証（園芸科学科3年・総合農業科2年） 南稜就農塾説明会（全学年） 進路希望調査①（全学年）	5 1・2
5月	大豆100粒運動研修会①（南稜就農塾） GAP認証更新に伴う点検と整備①（園芸科学科3年・総合農業科2年） 6次産業化用原材料の生産と検討①（園芸科学科3年・総合農業科2年） 共同研究グラジオラス栽培①（園芸科学科3年・総合農業科2年） 共同研究アボガド技術指導研修（園芸科学科3年・総合農業科2年） キャリアプランの作成（南稜就農塾） 地域文化研修（生活経営科3年） 地域資源活用実験（生活経営科3年） アグリ・インフォサイエンス研修①（南稜就農塾） 地域農家及び事業者訪問研修①（南稜就農塾） 介護職員初任者研修講座開始（普通科福祉コース2年） 夏野菜栽培実習（普通科福祉コース1年） 毛刈り技術習得研修（生産科学科3年・総合農業科2年） 地域農業理解研修①（生産科学科3年・総合農業科2年） 研究推進委員会① 全学科共通SPH意識調査①（全学科） 管内事業所訪問（全学科）	1 5 6(④) 7 7 1 12 13 1 1 15 15 3 4
6月	地域課題解決プロジェクト学習（南稜就農塾） 大豆100粒運動研修会②（南稜就農塾） GAP認証更新に伴う点検と整備②（園芸科学科3年・総合農業科2年） GAPの講演会（園芸科学科3年・総合農業科2年） 共同研究先進地視察研修【アボガド農園】（園芸科学科3年） 共同研究の企画検討会議（園芸科学科3年） 地域資源活用交流会（生活経営科3年） 地域農業理解研修②（生産科学科3年・総合農業科2年） 田植え体験研修（生産科学科3年・総合農業科1年） アグリ・インフォサイエンス研修②（南稜就農塾） 地域農家及び事業者訪問研修②（南稜就農塾） 先進地視察研修（生産科学科3年・総合農業科2年） 最先端測量技術（ドローン）の習得（環境工学科3年） 「先達に学ぶ」講演会（全学科） 運営指導委員会① 管外事業所訪問（全学科）	1 1 5 5 7 7 13 4 4 1 1 3 10・11

	産業人育成講演会（全学年） 郷土愛醸成講演会①（全学年）	
7月	大豆100粒運動研修会③（南稜就農塾） フラワーアレンジメント講習会（園芸科学科3年） 共同研究グラジオラス技術指導研修（園芸科学科3年・総合農業科2年） 先進地視察研修（食品科学科1年） 食品加工技術研修会（食品科学科2年） 最先端測量技術講習（ドローン）（環境工学科3年・総合農業科2年） 農業施設技術研修（園芸科学科3年） 障がい者スポーツの理解①（普通科体育コース1・2年） 地域農業理解研修③（生産科学科3年・総合農業科2年） 球磨地域有機栽培農家視察研修①（生産科学科3年・総合農業科2年） アグリ・インフォサイエンス研修③（南稜就農塾） 地域農家・事業者訪問研修③（南稜就農塾） インターンシップ及び職場体験研修（全学科・南稜就農塾）	1 7 7 ⑩ ⑩ 10(⑧)・11(⑨) 6 14 4 4 1 1
8月	大豆100粒運動研修会④（南稜就農塾） 宿泊型農家研修（南稜就農塾） 県立農業大学校主催の「緑の学園」への参加（希望者） 共同研究グラジオラス栽培②開始（園芸科学科3年） デイサービス実習（普通科福祉コース1年） 研究推進委員会②※分科会	1 1 2 7 15
9月	6次産業化用原材料の生産と検討②（園芸科学科3年・総合農業科2年） GAP認証の更新に向けた点検（園芸科学科3年・総合農業科2年） 共同研究中間報告会（園芸科学科3年） 大学視察研修（南稜就農塾） 球磨地域有機栽培農家視察研修②（生産科学科3年・総合農業科2年） 南稜米情報発信プロジェクト（生産科学科3年・総合農業科2年） アグリ・インフォサイエンス研修④（南稜就農塾） 地域農家・事業者訪問研修④（南稜就農塾）	6(④) 5 7 2 4 4 1 1
10月	マーケティング研修（食品科学科2年） 林業ガイダンス（環境工学科3年） GAPの講演会（園芸科学科3年・総合農業科2年） GAP更新調査・実地研修（園芸科学科3年・総合農業科2年） 共同研究の企画検討会議（園芸科学科3年） 球磨人吉畜産共進会参加（生産科学科3年・総合農業科2年） 熊本県乳牛共進会（生産科学科3年・総合農業科2年） 研究推進委員会③	⑩ 10 5 5 7 3 3
11月	球磨焼酎蔵元での醸造実習（食品科学科2年） 「食と命の授業」育成鶏の解体（生活経営科1年）	⑩ 13

	共同研究グラジオラス技術指導研修（園芸科学科3年） フラワーアレンジメント講習会（園芸科学科3年） 障害者スポーツの理解②（普通科体育コース） 畜産（繁殖）職員研修（南稜就農塾） S P H三校連携交流学习会（園芸科学科3年） 寄せ植え実習（普通科福祉コース1年） 郷土愛醸成講演会②（全学年） 産業教育フェア視察・S P H事業報告会（運営担当者）	7 7 14 3 5 15
1 2 月	球磨地方4 Hクラブとの活動発表交流会（南稜就農塾） 球磨焼酎蔵元の工場見学（食品科学科1年） キャリアプランの達成評価（南稜就農塾） 体育コース研修（普通科体育コース1・2年） デイサービス寄せ植え交流体験（普通科福祉コース1年） 先進地研修（環境工学科3年・総合農業科1・2年） 研究推進委員会④ 運営指導委員会② S P H成果報告会 進路希望調査②（全学科） 全学科共通S P H意識調査②（全学科）	2 ⑩ 2 14 15 10(⑧)
1 月	各研究報告まとめ	
2 月	管内熊本県農業コンクール受賞者及び農家の視察（南稜就農塾） 就農者・林業従事者激励会の実施（南稜就農塾・環境工学科3年） 6次産業化製品の試作（総合農業科1～2年） 地域就農教育検討会議②（南稜就農塾） 就農激励会（南稜就農塾） S P H研究校年次報告会 3年次成果報告会	2 2・10・11 4 1 1
3 月	介護職員初任者研修修了 校内プロジェクト発表会での成果報告（全学科） 文部科学省へ事業完了報告書等を提出	15
通年※4	①農業全般の基礎・基本的な知識の学習と技術の習得（全学科） ②関連資格及び検定の取得に向けた学習及び試験（全学科） ③知的財産権に関する学習活動（全学科） ④地域理解・担い手意識向上に向けた人吉球磨塾の講演会（全学科） ⑤研究実施担当者会及び研究実施責任者会 ⑥上級学校進学に向けた受験対策及び進路指導（全学科・南稜就農塾） ⑦6次産業化と知的財産に関する基礎学習 （南稜就農塾・総合農業科・生産科学科・園芸科学科・食品科学科・生活経営科）	2 1・4・6・8・9・⑩・13

⑧環境に配慮した持続可能な農業の実践 (総合農業科・生産科学科・園芸科学科・生活経営科・普通科福祉コース)	1・3・4・5・7・12・15
⑨農畜産物の加工・貯蔵・品質管理・食品衛生・分析などに関する基礎的・基本的な知識の学習と技術の習得 (生産科学科・食品科学科・園芸科学科・南稜就農塾)	4・6・8・9・⑩
⑩学校演習林の保育(環境工学科)	⑧・10
⑪GAP指導員要請講習会(園芸科学科職員)	5
⑫農産物の新規導入及び技術向上を目指した研究(園芸科学科・総合農業科)	5・7
⑬共同研究(商品開発)及びカフェ運営(食品科学科)	8・9・⑩
⑭農家宿泊研修(南稜就農塾)	2
⑮教職員の先進地視察研修(各研究指導担当者)	3

※1 () 内の記載は対象生徒を示す

※2 初年度の活動計画に記載された「研究内容」の番号は、対象別研究内容(下表)の「研究項目番号」の数字に対応する

【対象別研究内容】

研究項目番号			研究内容	対象
3年	2年	1年		
1			地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	南稜就農塾 1～3年
2			高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	南稜就農塾 1～3年
3			「永続性」を持った農業教育実践と人材育成 ～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	生産科学科 3年 総合農業科 1～2年
4		4	地域の特色と資源を活かしたモノづくり	生産科学科 3年 総合農業科 1～2年
6		※1	6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	園芸科学科 3年 総合農業科 2年
5		7	生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	園芸科学科 3年 総合農業科 2年
7		※2	地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	園芸科学科 3年 総合農業科 1～2年
8		⑩	地域の食品開発センターとしての確立 ～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	食品科学科 3年 食品科学科 1～2年
9		※3	食の6次産業化を担う人材の育成	食品科学科 3年 食品科学科 1～2年
10		⑧ ※4	地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成	環境工学科 3年 総合農業科 1～2年

11	⑨ ※4	農村環境の保全と開発に従事する技能者育成	環境工学科 3 年 総合農業科 1～2 年
12		地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	生活経営科 1～3 年
13		農村・地域社会及び文化の伝承と継承ができる人材育成	生活経営科 1～3 年
14		農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーターの育成	普通科体育コース 1～2 年
15		園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及	普通科福祉コース 1～2 年

研究項目の統合により、研究項目番号の標記を改訂する。

※1 1年次は、研究項目番号「4」と「6」を統合した研究項目番号「4」とする。

※2 1年次は、研究項目番号「5」と「7」を統合した研究項目番号「7」とする。

※3 1・2年次は、研究項目番号「8」と「9」を統合した研究項目番号「⑩」とする。

※4 1・2年次は、研究項目番号「10」を「⑧」、研究項目番号「11」を「⑨」とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
平成29年度学校教育研究助成金	公益財団法人日本教育公務員弘済会 熊本支部	¥70,000	平成29年度	事業運営及び推進における機器

8. 知的財産権の帰属

(○) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

() 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載